

2019年度 子どもたちの“こころを育む活動”優秀賞



あじしま 網地島ふるさと楽好 宮城県

虐待孤児や震災孤児の心のふるさとづくり



網地白浜の透明な海。まるで宙を飛んでいるよう。シーカヤックは自分が船長。上手に漕げると自信がつきます。沈したときは島のおじいちゃんが助けてくれます。砂の中のひらめを踏むと、びっくりして逃げて行きます。ソトネコやアオスジアゲハやオニヤンマが浜に遊びに来てくれます。

活動の概要

子どものいない網地浜のお年寄りは虐待孤児を切なく思い、その幸せだけを願い、費用を全て工面して島に招待しています。年長から高校生になるまで島に来て、みんなで海の幸を料理し、家族のように楽しく食べます。島のお年寄りの温かな心が通じて、子どもたちは自分を大切に思うようになり、思いやりの心が育まれてきます。東日本大震災、大津波は漁船を沈め、電気も水道も遮断。膨大なガレキに埋もれた島。絶望の中、キセキが起きた。子どもたちから百通を超える手紙が届いたのです。来年の夏に子どもたちを呼ぼうと奮起。島のお年寄りから心を学んだ子どもたちが、ガレキに苦しむ島を救いました。



おもしろいように釣れる網地島だけの魚釣り「アナゴ抜き」。浜で塙焼き。おばあちゃんと額を寄せて、つぶ貝をむく子どもたち。心のさびしさを子どもたちは自分が釣った魚だと骨までなめるようにして食べます。



おばあちゃんと額を寄せて、つぶ貝をむく子どもたち。心のさびしさを垣間見る瞬間。何気ない会話がとても楽しい。みんなおいしく食べてね。

活動の特徴

島のお年寄りの子どもたちへの真心 素直な涙が子どもたちの心を育む

帰りの船でいつまでも泣き続ける子どもたち。虐待や貧困や震災で辛く悲しい境遇であったからこそ、島のお年寄りの温かい心を大切に思ってくれます。



東日本大震災でガレキに埋もれた網地島 子どもたちの手紙に島のお年寄りが奮起

海からの大量のガレキを諦めずに何度も片付け、わずか1年で撤去。子どもたちのために小さなガラスも丹念に拾い、裸足で入れる砂浜を取り戻しました。



全国からの大学生ボランティアの研鑽 虐待孤児の本当の心を知る貴重な経験

大学生ボランティアは子どもたちから「おかあさんはいるの?」と聞かれ、さびしい本当の心を知ることができました。また、障害や個性と向き合います。



参加者の声

島の魚のお刺身はおいしい。みんなで食べたら、大きなヒラメが骨だけになった。島のおばあちゃんの料理はとてもおいしい。(子ども)

ぼくたちが杵と臼でついたお餅は、島のおじいちゃんやおばあちゃんたちにも配ったよ。おいしく食べててくれたかな。(子ども)

膝が痛い、腰が痛い。でも、子どもたちの明るい笑顔を見ると頑張れる。子どもの笑顔はいい。こっちまで楽しくなる。(島のおばあちゃん)

今度島に来るときにどれくらい背が伸びているか楽しみだ。大人になつたら、子どもを連れて島に遊びに来てほしい。(島のおじいちゃん)